

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019 年 9 月

「彼を知るために」「完全に自由の律法（Ⅱ）」「神の栄光とは何か?」「油を使わないごまドレッシング

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

完全に自由の律法 (II)

4

聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために

8

That I May Know Him

現代の真理

「神の栄光とは何か?」

39

神の栄光ともう一つの声

力を得るための食事

「油を使わないごまドレッシング」

46

レシピ

お話コーナー

「ユダ」

48

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019年8月4日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page, Sermon View on page 38

偉人の受けた教育

聖書にしるされている歴史の中には、真の教育の結果について、多くの実例が示されている。そこには、神の導きによって品性を陶冶した人々の多くのとうとい例が示されている。彼らは人類同胞の祝福となるような一生を送り、神の代表者として、世に立った人々である。…

ヨセフとダニエルは、ちょうど子供からおとなになる年ごろに、家庭を離れて捕われの身として異教の国へつれて行かれた。ことにヨセフは、大きな運命の変化をともなった数々の試練に会ったのであった。…そうした中であって、彼に誠実な心を持ち続けさせたのは何であつたろうか。

高いところに立つ者はだれでも危険を免れることができない。…しかしヨセフは、逆境と繁栄の両面の試練に耐えた。彼はパロの宮殿にあつても、獄中にあつたときと変わらない同じ誠実心を表わした。

ヨセフは、少年時代に、神を愛しおそれることを教えられた。…

羊飼いの少年として、父の羊の群れの見張りをしていたヨセフの純朴な生活は、彼に体力と知力の発達をもたらした。ヨセフは、自然を通して神と交わり、聖なる委託物として父から子へ伝えられたとうとい真理を学んで、堅実な精神と確固たる原則を身につけた。

ヨセフが、人生の危機に面したとき、すなわち子供時代をすごしたカナンのが家から、奴隷の運命が待ちうけているエジプトへの恐ろしい旅の途中に、肉親の住む天幕のかくれた山々を見納めたときに、かれは父ヤコブの神を心に覚えていた。少年時代の教訓を思い出し、真実な人間になって、どんなときにも天の王の臣下としてふさわしい行動をとらなければならないと決心した時に、彼の魂は感動した。

他国人としてまた奴隷としてのつらい生活の中にあつても、…人の心を引きつけないではおかぬ富と文化の王室の盛観に囲まれた礼拝の誘惑のさなかにあつても、ヨセフは動揺しなかった。彼は、義務に服従するという教訓を学んでいた。最も低い境遇から最も高い身分に至るまでどんな立場にも忠実であることによって、あらゆる能力が最高の奉仕のために訓練された。…

霊感の言葉はヨセフの一生の秘訣をわれわれの前に示している。…

「…これはヤコブの全能者の手により、イスラエルの岩なる牧者の名により、あなたを助ける父の神により、…あなたを恵まれる全能者による。…」(創世記 49:22-26)。

神への忠誠、目に見えない神への信仰が、ヨセフの錨であつた。ここに彼の能力が隠されていた。(教育 47-50)

第12課 完全に自由の律法(Ⅱ)

どなたが立法者か？

神の律法が最初に記述された記録は、シナイ山においてモーセに与えられました。神はご自分の律法を非常に聖なるものとみなしておられたため、聖書の他のすべての記述とは異なり（ペテロ第二 1:21）、神の律法を記述することは、人間の書記官にお委ねにはなりませんでした。神は、自らの口によりその律法を述べられ、またご自身の指によって石の上に律法を書き記されました（出エジプト記 20:1, 32:16）。

神は、ご自身を神の民の救出者として表されました。「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である」（出エジプト記 20:2）。

イエスは、常にその民の近くにおられますし、これまでもそうでした。なぜなら、イエスの利益は彼らの利益と結び合わされているからです。「彼らはすべての悩みのとき、主も悩まれて、そのみ前の使をもって彼らを救い、その愛とあわれみとによって彼らをあがない、いにしえの日、つねに彼らをもたげ、彼らを携えられた」（イザヤ 63:9）。

「みな、同じ霊の飲み物を飲んだ。すなわち、彼らについてきた霊の岩から飲んだのであるが、この岩はキリストにほかならない。」（コリント第一 10:4）。

律法の中心において、イエスはご自身が創造主であることを明らかにしておられます。

「主は、六日のうちに天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」（出エジプト記 20:11）。

わたしたちはさらに、ヨハネ第1章において、イエスに関する記述を読むことができます。「すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれ（彼）によらないものはなかった」（ヨハネ 1:3）。

キリストは、ここで創造主として表されています。使徒パウロは次のように記

述しました。「万物は、天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、位も主権も、支配も権威も、みな御子にあつて造られたからである。これらいつさいのものは、御子によって造られ、御子のために造られたのである」(コロサイ 1:16)。

エジプトからの救出によって象徴された救出者、すなわち、わたしたちを罪からあがなう贖い主はどなたでしょうか。「彼女は男の子を産むであろう。その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである」(マタイ 1:21)。

イエスがご自分の民、すなわちイスラエルを奴隷の地から導き出されたように、このお方は罪の奴隷の状態から自由になろうとする人々を救い出されます。

イエスが偉大な立法者であられることはますます明らかにされています。

どのようにすれば、法は守られるのだろうか？

わたしたちを罪の奴隷の状態から救出するために、イエスが来られたということを見てきました。罪とは何でしょうか。「すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である」(ヨハネ第一 3:4)。

罪が律法の違反であるとするれば、律法を守ることは、その正反対であるはずです。聖書の中で用いられている言葉は、「義」です。使徒パウロは、神の律法を次のように言及しています。「このようなわけで、律法そのものは聖なるものであり、戒めも聖であつて、正しく、かつ善なるものである」(ローマ 7:12)。この聖なる律法は、すべての者を裁く基準である。「だから、自由の律法によって裁かれるべき者らしく語り、かつ行いなさい」(ヤコブ 2:12)。

パウロは、わたしたちの墮落した性質について述べて、罪人の問題を次のように要約しました。「わたしたちは、律法は霊的なものであると知っている。しかし、わたしは肉につける者であつて、罪の下に売られているのである」(ローマ 7:14)。

わたしたちが肉の者であり、すなわち罪の性質の奴隷であるならば、裁きに耐えうる希望はありません。

「罪の支払う報酬は死である」(ローマ 6:23)。

では、どのようにすれば、不完全で、汚れた人間が、完全で聖なる律法を守ることができるでしょうか。彼らは守ることができないのです。

「なぜなら、肉の思いは神に敵するからである。すなわち、それは神の律法に

従わず、否、従い得ないのである」(ローマ 8:7)。

ここで、イエスが登場してくださるのです！イエスは、わたしたちから肉の性質を取り除き、それをご自身の霊的な性質と取り替えると約束されました。

「…わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」(ヘブル 8:10)。

わたしたちは、信仰によりわたしたちの罪深い心をイエスに明け渡し、このお方の義をつかむことができる。人の生活におけるこの非常に大きな変化は、「新生」と呼ばれています。わたしたちの心は感謝と、救い主への愛と、そして王家の自由な律法というかたちで具現化された神の諸原則への愛で満たされます。

「神を愛してその戒めを行えば、それによってわたしたちは、神の子たちを愛していることを知っているのである。神を愛するとは、すなわちその戒めを守ることである。そして、その戒めは難しいものではない。なぜなら、すべて神から生まれた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝つための勝利の力である。」(ヨハネ第一 5:2-4)。

自由！わたしたちが本当に神を愛し、神の律法が決して嘆かわしいものではないということを見いだしたときに、自由が現実になります。

「愛は隣りに人に害を加えることはない。だから、愛は律法を完成させるものである」(ローマ 13:10)。

神の律法

1. 神への愛

「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」(出エジプト記 20:3)。

「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水の中にあるものの、どんな形をも造ってはならない」(出エジプト記 20:4)。

「あなたは、あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないではおかないだろう。」(出エジプト記 20:7)。

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日の間、働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目は、あなたの神、主の安息であるから、なんのわざもしてはならない。あなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちに

いる他国の人もそうである。主は、六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は、安息日を祝福して聖とされた」(出エジプト記 20:8-11)。

人間への愛

「あなたの父と母を敬え。これは、あなたがたの神、主が賜る地であなたが長く生きるためである」(出エジプト記 20:12)。

「あなたは殺してはならない」(出エジプト記 20:13)。

「あなたは姦淫してはならない」(出エジプト記 20:14)。

「あなたは盗んではならない。」(出エジプト記 20:15)。

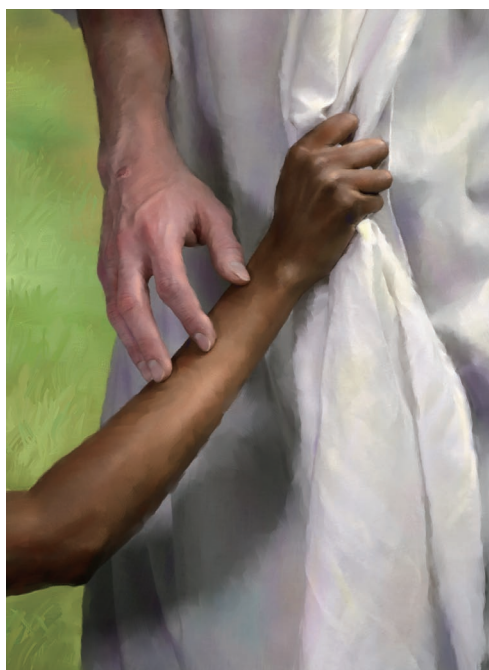
「あなたは隣人について、偽証してはならない」(出エジプト記 20:16)。

「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべての隣人のものをむさぼってはならない」(出エジプト記 20:17)。

友よ、あなたはどこに立ちますか。この世に従うでしょうか。あるいは、神の自由の律法を選び、このお方のために自分の人生を送るでしょうか？

彼を知るために

That I May Know Him



9月

わたしの主とわたし

「ふたりの者がもし同意しなかったなら、一緒に歩くだろうか。」(アモス 3:3 英語訳)

エノクは神と共に歩いた。彼は神と心が一つであった。「ふたりの者がもし同意しなかったなら、一緒に歩くだろうか」と預言者は尋ねている。もしわたしたちが神と心が一つであれば、わたしたちの意志は神の意志に吸収され、神が導かれる道はどこへでも従うであろう。愛されている子供が自分の手を父親の手の中に委ね、暗闇でも日中でも完全に信頼して父親と共に歩くように、神の息子、娘たちも、喜びの時も悲しみの時もキリストと共に歩くべきである。……

キリストに従う者は世に主のご品性を表すべきである。自分の義務に軽率であつたり不注意であつたり、人に与える影響に無関心であつてはならない。なぜなら、彼らは地上にあってイエスの代表者であるべきだからである。……

完全な信仰と純潔の中を歩まない者は、神のみ前に出るという考えに対して恐ろしく感じる。彼らは神について考えたり語ることがを好まない。心の中でも行為によっても「神よ、わたしたちから離れて下さい。わたしたちはあなたの道を知りたくはない」と言う。しかしキリストを信じる信仰によって、真のクリスチャンは神のみ心とみ旨を知る。生きた経験によって知識を越えた神の愛の長さ、深さ、広さ、高さのいくぶんかを理解する。

神を愛する魂は、神との絶え間ない交わりによって彼から力を得ることを望む。神と語り合うことが魂の習慣となる時、悪しき者の力は破られる。なぜならサタンは神の近くに引き寄せられている魂の近くにとどまることができないからである。もしキリストがあなたの友であるならば、空しく清くない思想をいだきつづけることはない。あなたの心を清めるために来られた主を悲しませるようなつまらない言葉を出さなくなる。……

真理によって清められた者は、真理の生きた紹介状であり、よみがえられた主の代表者である。キリストの宗教は好みを精錬し、判断力を潔め、魂を高め、純潔にし、高貴にして、天のみ使いたちの社会にますますふさわしい者とする。(レビュー・アソッド・ヘラルド 1889 年 12 月 3 日)

9月2日

神のみ声を聞け

「人の歩みは主によって定められる。主はその行く道を喜ばれる。」(詩編 37:23)

青年男女はしばしば、何をしたらよいのかわからない立場に追いやられることがある。彼らの傾向は彼らを一方に導き、神の聖霊は他の方向に引き寄せられる。サタンは強引に誘惑し、生来の傾向に従うようにけしかける。しかし神に真実であろうと望む者は「これが道だ、これに歩め」という声に聞き従う(イザヤ 30:21)。彼らは義の道が彼ら自身の心の道を進むより難しく、また従うのに苦しくても、その道をとることを決心する。……

わたしたちは健全な判断をし、正しいゆえにその安全な道を選ぶことができるように、日常生活の事柄において天よりの知恵を受ける必要がある。自分自身の判断によって行動する者は生まれながらの心の傾向に従う。しかし、神の言葉に心を開いている者は祈りつつ自分の歩むすべての道をよく考える。こうして神をあがめ、主の道を守ることができるのである。彼は「キリストさえご自身を喜ばせることをなさらなかった」ということを覚えて主のみ足の跡に従うことが偉大な特権であると考え。自分の困惑を祈りによって神に委ね、自分の所有主である神の導きを求める。彼は自分の魂、体、心、力が神のものであることを悟るのである。……

どの青年も自分自身の道に従わず、実際場で主により頼むように自分を訓練しなさい。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。自分を見て賢いと思ってはならない、主を恐れて、悪を離れよ。……知恵を求めて得る人、悟りを得る人はさいわいである。……知恵は宝石よりも尊く、あなたの望む何物も、これと比べるに足りない。その右の手には長寿があり、左の手には富と、誉がある。その道は楽しい道であり、その道筋はみな平安である」(箴言 3:5-17)。(ユース・インストラクター 1895 年 9 月 19 日)

神の導きを見よ

「見よ、しもべがその主人の手に目をそそぎ、はしためがその主婦の手に目をそそぐように、われらはわれらの神、主に目をそそいで、われらをあわれまれるのを待ちます。」(詩篇 123:2)

神の子らは罪に対して鋭い敏感な心を養うべきである。……人間に小さな罪を犯させるように仕向け、小さな放縱の危険や、神が明白に述べられたご要求から少しでも外れることの危険に対して心を盲目にするのはサタンの最も成功している策略の一つである。何か大きな罪からは恐れて身を引く多くの人々が、小さな罪を些細な事柄のように見がちである。しかしこのような小さな罪が魂の神に似た(信心の)命を食い尽くしてしまう。……

神はわたしたちに、無条件の服従によってご自分に対する忠誠を示すように命じておられる。どのような決定をするにしても、そのことが苦しい結果をもたらすかどうかと言う点ではなく、神のみ旨に反しているかどうかという点を問うべきである。自己により頼まないで、神に全的により頼み、導きと支持、主のみ旨の知識とそれを行う力を求めることを学ばなければならない。もつと神と交わらねばならない。密室の祈り、両手が働きに従事している間の祈り、道を歩きながらの祈り、夜の祈り、神に昇っていく心の願い、一これがわたしたちの唯一の安全である。このようにエノクは神と共に歩いた。この方法で、わたしたちの模範である方はナザレからカルバリーのいばらの道を歩む力を得られたのである。

罪なき方であり、聖霊がおしみなく与えられたキリストは常に神に依存していることを知っておられ、力と知恵の源からの生き生きした賜物を求められた。有限で誤りやすい人間は、どれほどもつと神からの助けの必要を時々刻々感じるべきであろうか。人はどれほど注意深く導き手に従い、自分の導きと教えのために与えられた一つ一つの言葉を注意深く心に銘記すべきであろうか。「見よ、しもべがその主人の手に目をそそぎ、はしためがその主婦の手に目をそそぐ」ように、わたしたちの目を、わたしたちの神、主に注ぐべきである。主の戒めは絶対の信仰を持ってそれを受け入れ、喜んで正確に従うべきである。(レ・ビュー・アンド・ワールド 1887年11月8日)

9月4日

勝利の進軍

「しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わったのである。」(コリント第一 15:57)

自分の無価値さを感じ、十字架につけられ、よみがえられた救い主の血の功績にまったく頼り自分の無力を感じる魂ほど無力なものはなく、依存しているものはない。クリスチャンの生活は戦い、すなわち絶え間ない争闘の生涯である。それは戦闘と進軍である。しかしキリストに対するすべての従順の行為、主のためにされるすべての自己否定の行為、またよく耐えたすべての試み、そして誘惑を乗り越えたすべての勝利は最後の勝利の栄光へと前進する一歩である。

もしわたしたちが、キリストをわたしたちの導き手とするならば、主は尊い狭い道を安全に行かせられる。その道は荒れたいばらの道かもしれない。坂道は急で危険かもしれない。左右に落とし穴があるかもしれない。人生の旅路で骨の折れる仕事に耐えなければならないかもしれない。疲れて、休息を求める時、なおこつこつと働かなければならないかもしれない。めまいのしている時も戦い、勇気をくじかれた時も望みを持つように求められるかもしれない。しかしわたしたちの導き手であるキリストと共にいるならば、永遠の命への道を見失うことなく、最後には間違いなく待望の天国に到着する。

キリストご自身がわたしたちの前にある荒れた道を歩まれ、そしてわたしたちの足のために道を平らにされた。聖なる狭い道であり、主によって贖われた人々が歩くために切り開かれた道は、世の光であられる主によって照らされる。主のみ足の跡に従う時、主の光はわたしたちの上に輝き、キリストの栄光から出る光をわたしたちが反映する時、その道はいよいよ輝きを増して真昼となる。

初めは自尊心と世間的野心に従うのを楽しく思うかもしれない。しかし最後は痛みと悲しみである。利己的な計画は、自分に都合の良い約束を与え、楽しい望みを持たせるかもしれない。しかしわたしたちはその幸福が有毒であり、自分の生活が自己を中心とした望みによっていつそう苦いものとされるのを知る。キリストに従う時、わたしたちは安全である。なぜなら主は闇の力がわたしたちの髪の毛一本も損なうことを許されないからである。主はご自分にゆだねられたものを守られる。そしてわたしたちを愛して下さった主によって、わたしたちは勝ち得て余りがある。(ビュー・アズ・ヘルド 1895年2月5日)

最初の危険な一歩

「兄弟たちよ。気をつけなさい。あなたがたの中には、あるいは、不信仰な悪い心をいだいて、生ける神から離れ去る者があるかも知れない。」(ヘブル 3:12)

世の救い主が人間の中を歩まれていた時、彼の弟子として主と行動を共にしていた多くの者が、後に主を捨てて主の最も苦い敵となった。救い主は彼らの信仰を試し、最も熱心な信者の心に霊的真理をあてはめることによって真の品性を明るみに出された。……

彼らは、キリストのように柔和で謙遜な心を持ち、自己否定と自己犠牲がなければならぬ。もし命の賜物と天の栄光を受けたいなら、カルバリーのお方が進まれた狭い道を歩かなければならぬ。しかし試練はあまりにも大きかった。彼らは、み言葉を聞くことも、主が教えられた真理の性質を理解することもできなかった。……

背教の働きは、神の律法のご要求に対抗する心の秘密の反逆から始まる。汚れた欲望や不法な野心を心に抱き、それらにふけり、そして不信と暗黒は魂を神から引き離す。もしわたしたちがこれらの悪に打ち勝たないならば、それがわたしたちを征服する。真理の道に長く歩んできた人は試練と誘惑で試みられる。サタンの暗示に従い、自分の誠実さから離れる者は、墮落の道を歩み始め、彼らの墮落が明白で急速になるまで、巧妙な誘惑が彼らを背教の道へとせき立てる。……

常にわたしたちを守ってくださる方に、誘惑に陥らないように目を覚まして祈る必要がある。霊的な誇りを抱き、汚れた欲望を持ち、悪い思いにふけること、またイエスとの親密な、また聖なる交わりからわたしたちを引き離すどんなものにふけることもわたしたちの魂を危険に陥れる。……もし背教の思いがあなたによって悲しむべきものであり、真理の敵や、兄弟の告発者になりたくないなら、「悪は憎み退け、善には親しみ結び」合うものでなければならぬ(ローマ 12:9)。そしてまた「あなたがたを守ってつまずかない者とし、また、その栄光のまゑに傷なき者として、喜びのうちに立たせて下さるかた」を信じなければならぬ(ユダ 24)。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 5 月 8 日)

9月6日

罪の惑わし

「あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って、心をかたくなにする者がないように、『きょう』といううちに、日々、互に励まし合いなさい。」(ヘブル 3:13)

「罪の支払う報酬は死である」(ローマ 6:23)。たとえいかに小さく思われても、罪をあくまで続けるならば、永遠の命という代価を払うことになる。……

アダムとエバは禁じられた実を食べるというささいな事で、神が言い渡されたような恐ろしい結果が起こるはずがないと信じ込んだ。しかしこの小さな事柄は、罪、すなわち神の変わることのない聖なる律法の違反であった。そして、それは死の水門をあけ、わたしたちの世界に言い表せない苦悩をもたらした。それ以来どの時代にも、わたしたちの地上から絶え間ない嘆きの叫びが上がった。すべての被造物が、人間の不従順の結果として、共にうめき苦しみ続けている。天、そのものが神に対する人間の反逆の影響を受けてきた。カルバリーは聖なる律法の違反に対する贖罪として要求された驚くべき犠牲の記念として立っている。罪をささいなことと考えないようにしよう。宇宙の前に言い表すことのできない悪と呪いについて永遠のあかしができるのは、無限の神のみ子の両手と足と脇ではないだろうか。

罪がどれほど罪深いものであるかということに関して正しい観念が若い者にも老いた者の心にも植え付けられるように。……

神は信心深い様子に欺かれない。神は品性の評価に間違われることはない。人間は、心が汚れている者によって欺かれるかもしれない。しかし神はすべてのごまかしを見破り、内なる生活を読み取られる。すべての魂の道徳的価値が天の聖所のはかりで計られる。これらの厳粛な思想がわたしたちに影響を与えるならば、わたしたちは悪を行うことをやめ、善を行うことを学ばないでおられようか。罪の生活から得られるものは希望のない絶望以外は何もない。……

信仰がしっかりと神のみ約束をつかむようにしよう。イエスはご自分の民を彼らの罪から救う力を持っておられる。天からの光はわたしたちの道を照らしてきた。わたしたちが聖なる戒めの違反者にならないようにみ言葉と真理の御霊によって、罪がわたしたちに明らかにされてきた。知らなかったという口実で弁解する機会はない。戒めは「すべての不義から離れよ」である(テモテ第二 2:19)。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 3 月 27 日)

戦いはわたしたちのためである

「勝利を得る者には、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。」（黙示録 3:21）

これらは、わたしたちの身代わりであり、保証人であるお方の言葉である。教会の聖なる頭であり、この上なく力強い勝利者であるお方は、彼に従う者に十字架の場面とカルバリーの道を上っていくまでの屈辱や拒絶、からかいやさげすみ、また侮辱やあざけり、そして虚偽を通して、ご自分の生活の労苦、また自己否定と苦悩、そして苦しみを指し示そうと望んでおられる。それは彼らが勝利を得た者に与えられる賞と報いに向かって押し進むことができるように勇気づけられるためである。（ビュー・アンド・ヘラルド 1888 年 7 月 24 日）

救いの計画は当然感謝されるべきほどに感謝されていない。それは認められも理解されもしていない。人が神と一致するために全能のお方の尽力が要求されたにもかかわらず、このことが全く安っぽい事柄にされている。……ご自分の神性に人性をまとわれたキリストは、道徳の価値という基準において人性を無限の価値あるものに高められた。しかし、神も、また御父と等しい方である神のひとり子も、何というへりくだりであろう。……

人間の霊的盲目があまりにはなはだしかったために、彼らは神のみ言葉を無効なものにしようと努めてきた。彼らは、カルバリーがエホバの戒めの不変性を証明する力強い論拠であるのに、自分たちの言い伝えによって、贖いの偉大な計画は神の律法を廃止し、無効にするために計画されたのだと宣言している。……

品性の状態は義の偉大な道徳的標準と比較されなければならない。神に忌み嫌われる特別な罪また神のみ名を辱め、神の御霊の光を消し、魂から最初の愛を消し去った罪を探り出さなければならない。……

勝利は、信仰と服従によって確実になる。勝利する働きは殉教者の時代に限られてはいない。世俗や自己防衛、また自尊心への耽溺（たんでき）、貪欲、また偽の教理、また命の不死に対する狡猾な誘惑の時代において、この争闘はわたしたちのためのものである。わたしたちは神が試みられる時、み前に立ちうるであろうか。（同上）

9月8日

試みの時により頼め

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」(ローマ 8:28)

クリスチャンの望みは、感情という砂のような土台に基づいてはいない。原則によって行動する者は影の向こうに神の栄光を見、約束の確かなみ言葉に頼る。道がどれほど暗く見えても、神を尊ぶことを止めはしない。逆境と試練は彼らの信仰と愛の誠実さを示す機会を彼らに与えるだけである。憂鬱が魂を覆ったからといって、神が変わられたという証拠ではない。彼は「きのうも、今日もいつまでも変わることがない」(ヘブル 13:8)。あなたが義の太陽の光線を感じることができるとき、あなたは神の恩恵を確信する。しかし、もし雲があなたの魂を覆っても、あなたは見捨てられたと感じてはならない。あなたの信仰は、暗黒を貫き通さなければならぬ。……キリストの恵みという富が心の前に置かれていなければならぬ。主の愛が与える教訓を宝として貯えなさい。あなたの信仰をヨブのようにしなさい。そうすればたとえ「彼はわたしを殺しても、わたしは彼により頼む」(ヨブ 13:15 英語訳)とあなたは宣言することができる。あなたの天の父のみ約束をしっかりとつかみ、あなたや主のしもべをかつてどのように扱ってこられたのかを覚えなさい。なぜならば万事が神を愛する者たちに益となるようにして下さるからである。

クリスチャンの生涯における最も苦しい経験は、わたしたちにとって最大の祝福となる。暗黒の時の特別な摂理は将来サタンの攻撃にあっても魂を勇気づけ、火のような試練に立つことができるように神のしもべを備えさせる。あなたの信仰の試みは、金よりもっと尊い。あなたは欺く者の誘惑や議論にわずらわされることのない神への変わらぬ信頼を持たねばならない。主をそのみ言葉通りに受け入れなさい。……

魂に神の存在と臨在を悟らせるのは信仰である。そしてもし、わたしたちが主の栄光だけを見つめて生活するならば、わたしたちはもっと、主のご品性の美しさを見分けるようになる。わたしたちの魂の霊的な力が強くなる。なぜならわたしたちは天の空気の中で呼吸し、神がわたしたちの右側におられることを悟るからである。……わたしたちは無限なる方のみ前にあるように生活すべきである。(ビュー・アンド・ヘルド 1888 年 1 月 24 日)

そしてイエスは祈られた

「このころ、イエスは祈るために山へ行き、夜を徹して神に祈られた。」(ルカ 6:12)

地上で伝道に従事しておられた間、天の王であられるお方は、しばしば熱心に祈られた。主は、たびたびこのように夜を徹して祈られた。この世の暗黒の力を感じた時、主のみ心は悲しみに満ちておられた。彼らは御父へとりなしをするために人里離れた場所を求めて、忙しい町や騒がしい群衆を離れられた。オリブ山は神のみ子が好んでしばしばいかれるところであった。群衆が夜の憩いのために主から離れて行った後、主は一日の働きで疲れながらも、お休みにならないことがしばしばあった。……町が静まり返ってご自分の弟子たちが眠って疲れをいやすために床に入っている間も、主の聖なる嘆願は、オリブ山から天父のもとに上がっていった。それはご自分の弟子たちが、世にあつて日々遭遇する悪の勢力から守られるためであり、また主ご自身の魂が来るべき日の任務と試練に対して力づけられ、支えられるためであった。主に従う者たちが、眠っている間一晩中、彼らの聖なる教師であられるお方は、ご自分の頭をたれ、その上に夜露と霜が降りても祈り続けられた。……

キリストの模範は主に従う者のために記録として残されている。イエスをご自身が祝福の力と源であられた。彼は病人を癒し、死人をよみがえらせることができた。嵐にさえ命令され、嵐は主に従った。主は墮落によって損なわれておらず、罪を知らないお方であった。けれども天父から助けと力を必要とするような苦悩に耐えられた。それで主は、しばしば激しい叫びと涙をもって祈られた。主は弟子たちのため、またご自身のために祈られた。このように人類によく見られる貧困や弱さ、また弱点を共有された。主は力強い懇願者であり、わたしたち人間の感情や、墮落した性質を持つておられなかったけれども、わたしたちと同じように弱さを身に負い、あらゆる点で誘惑された。……

わたしたちの模範であられるキリストはこれらの悩みの時に、天父に頼られた。主は、わたしたちに絶えず熱心に祈られた主の模範に従うことによってわたしたちに必要な時に、恵みと助けの力を得ることができる方法を提供なさるために地上に来られたのである。(ビュー・アンド・ハルド 1885 年 5 月 19 日)

9月10日

あなたがたは人を避けて行きなさい

「主を待ち望め、強く、かつ雄々しくあれ。主を待ち望め。」(詩編 27:14)

イエスの一生ほど骨折りと責任で多忙な生活はほかになかった。それなのに、祈っておられるイエスの姿がどんなにかしばしば見受けられたことだろう。彼はどんなにしじゅう神とまじわられたことだろう。……

イエスは、われわれと同じおかた、われわれの必要と弱さを共にされるおかたとして、全的に神によりたのまれた。そして義務と試練に対して張り切って出て行くために、イエスは、ひそかな祈りの場所で、神の力をお求めになった。罪の世にあって、イエスは、魂の戦いと苦しみ能耐えられた。主は、神とまじわることによって、ご自分に重くのしかかっている悲しみの重荷をおろすことがおできになった。……

キリストを通して、人類の叫びは限りなくあわれみ深い天父に達した。人としてキリストは、人性と神性とを結合する天来の電流によって、ご自分の人性が充電されるまで、神のみ座に嘆願された。世の人々にいのちを与えるために、イエスはたえまないまじわりを通して神からのいのちを受けられた。イエスの経験がわれわれの経験となるのである。

「さあ、あなたがたは、人を避けて」とイエスはわれわれに命じられる(マルコ 6:31)。イエスのみことばに留意するとき、われわれはもっと強く、もっと役立つ者となる。……もしきょうわれわれが時間をとってイエスのみもとに行き、われわれの必要をイエスに告げるならば、われわれは失望させられないであろう。主は、われわれの右側にいて助けてくださる。……

神の訓練を受けているすべての者のうちには、世とその慣例や習慣に一致しない生活があらわされる。だれでもみな、神のみこころを知るために、個人的な経験をする必要がある。われわれは、神が心に語られるのを個人的にきかねばならない。ほかの声がみな沈黙して、静けさのうちに神の前に待つとき、魂の静寂は神のみ声を一層明らかにする。神は、「静まって、わたしこそ神であることを知れ」とわれわれに命じておられる(詩篇 46:10)。ここにだけ真の休息がみいだされる。これこそ神のために働くすべての者にとって効果的な準備である。あわただしい群衆の中にあつて、人生の激しい活動の緊張のうちにあって、このように活気づけられた魂は、光と平和の雰囲気にとりかこまれる。その生活はかぐわしい香りを放ち、人々の心に達する神の力をあらわすのである。(各時代の希望中巻 100-102)

受け入れられる祈り

「また、イエスはある所で祈っておられたが、それが終わったとき、弟子のひとりが言った、『主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも祈ることを教えてください。』」（ルカ 11:1）

イエスは、ご自分の弟子たちに祈ることを教えられた。そしてしばしば祈りの必要性を彼らに力説された。主は弟子たちが、祈りの形式を学ぶために本を研究するようにとは命じられなかった。彼らは人に祈りをささげるのではなく、彼らの願いを神に知っていただくべきであった。神が受け入れられる祈りは必要を感じた魂から出る単純で熱心な嘆願であることを、主は彼らにお教えになった。

神は、わたしたちが罪の重荷と悲しみの心を持って来るようにと招いておられる。罪は神に対してわたしたちを恐れで満たす。わたしたちが罪を犯した時、神から自分たちの身を隠そうとする。しかし、わたしたちの罪が何であろうとも、神はわたしたちがイエス・キリストを通してご自分のもとへ来るようにと命じておられる。わたしたちが罪から自由になることができるのは、自分の罪を神のもとへ持っていく時だけである。神の譴責のもとでカインはアベルを殺したことで自分の罪を認めた。しかし彼はまるで自分の罪から逃れられることができるかのように神から逃れた。しかしもし彼が罪の重荷を持って神のもとに來たなら、彼は許されたのである。自分の罪と、みじめさに気が付いた放蕩息子は「立って、父のところへ帰ろう」（ルカ 15:18）と言った。彼は自分の罪を告白し、自分の父の心に再び迎え入れられた。

もしわたしたちが受け入れられる祈りをささげたいと思うなら、わたしたちがなすべき、自分たちの罪をお互いに告白するという働きがある。もしわたしたちが言葉や行いにおいて隣人に対し罪を犯したならば、わたしは彼に告白すべきである。もし彼がわたしに悪いことをしたなら、わたしに告白すべきである。他人に、悪いことをした者も、可能な限り償いをするべきであった。それから悔い改めのうちに神に罪を告白すべきである。神の律法が犯されたのである。わたしたちの兄弟に対して罪を犯す場合、わたしたちは神に対して罪を犯しているのであり、神に許しを求めなければならない。わたしたちの罪がどのようなものであっても、悔い改めてキリストの血の贖いを信じるならば許される。……神に近づく道はただ一つである。わたしたちの祈りはただ一つの名、すなわちわたしたちの仲保者、主イエスの名を通して神にまで届くことができるのである。（レブ・アソド・ハルト 1897年2月9日）

キリストは、神のみ座から身をかがめて、信仰を持ってご自分に求める全ての魂の必要に助けを送ろうと地の方を向いておられるお方として表されている。（手紙 134, 1899年）

9月12日

祈りの模範

「だから、あなたがたはこう祈りなさい、天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください。わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。」(マタイ 6:9-13)

今朝(1902年8月2日)、わたしは主の豊かな恵みを求めて祈った。主イエスがわたしの助け主であることと、受けることがわたしの特権である豊かな恵みを持っている、という特別な確証を得ることなく、一日を始めようとは決して思わない。

朝の祈祷において、わたしはキリストが弟子たちに教えられた祈りをもってわたしの嘆願を閉じることを、わたしの特権と考えている。わたしはあまりにもたくさんの方々の満たすべき必要があるので、時々求めそこなっているのではないかと恐れることがある。しかし、キリストが弟子たちに与えられた手本の祈りを心からささげる時、このわずかな言葉にわたしのすべての必要が含まれているのを感じずにはいられない。これをわたしは、わたしの特別な個人的な祈りをささげた後にささげる。心と精神と魂を持って、わたしが主の祈りを繰り返す時、わたしは求め足りないことはないと思う、わたしの働きを平安の中に進めることができる。

……

学者、パリサイ人たちはしばしば広場や、街の通りで自分の祈りをささげた。キリストは彼らを偽善者と呼ばれた。各時代を通して、人間は「人に見られるように」祈ってきた。……キリストの弟子たちのうちに彼らを墮落に導く可能性のある過ちをご覧になる時、主は常に、彼らに正しい道を教えられる。主はどのようにして過ちを改めるべきかを示す教訓を与えることなしに、訓戒をお与えになることはない。主の弟子たちに「くどくど祈るな」と教えられた後に、親切とあわれみをもって、短い祈りの模範を与えられた。それは彼らがパリサイ人の祈りに倣うことなくこれをどのようにして避けるのかを知るためであった。この祈りを与えることにより、主はすべての人間の必要を含む言葉を組み立てることによって、人間の弱さを助けておられることをご存知であった。「わたしたちはどのように祈るべきか知りません」。しかし、わたしたちへのキリストの教えは、明白ではっきりとしている。(原稿 146, 1902 年)

神はどのような方か

『山は移り、丘は動いても、わがいつくしみはあなたから移ることなく、平安を与えるわが契約は動くことがない』とあなたをあわれまれる主は言われる。」(イザヤ 54:10)

わたしたちは、審判者としての神のみを考えて、わたしたちの愛情深い父としての神を忘れてはならない。このように考えることほど、わたしたちの魂を害することはない。なぜなら、わたしたちの霊的生活全体は、神のご品性に関するわたしたちの理解によって、形作られるからである。……

わたしたちの天の父と親しくなるために今、わたしたちは機会を大切に用いよう。「それは御子を信じる者がひとりも滅びない…ためである。神はそのひとり子を賜わたしたほどに、この世を愛して下さった」神、無限の神が、父と言う名によってご自分に近づくことをわたしたちの特権としてくださったとは何と驚くべき愛であらう。地上のいかなる親も、わたしたちを創造された神が罪人に嘆願されるほど、熱心に嘆願することはできない。どんな人間の愛に満ちた関心も、このような優しい招きで強情な者を従わせたものはない。……

わたしの言葉は確かである。山はうつり、丘は動いても、神のいつくしみはその民から移ることなく、平安を与える主の契約は動くことはない。「わたしは限りなき愛を持ってあなたを愛している」(エレミヤ 31:3)「とこしえのいつくしみを持ってあなたをあわれむ」(イザヤ 54:8)と言われる主の声が聞こえる。これは何と驚くべき愛だろう。神は人間の恐れや弱さからくる疑いや疑念の原因を取り除くために身を低くされ、信仰によってご自分に差し出された震える手を取ってくださる。そして、主は掛け算による保証と安全を加えて、わたしたちが主により頼むのを助けて下さる。主はわたしたちの服従という条件を基にして拘束力のある契約を結び、わたしたちが自分の理解できる範囲にまで会いに来てくださる。わたしたちは、友人との誓いや約束を記録したとしても、担保が必要であると考え。イエスはこういった特定の心配を取り除くために、誓いを持って主の約束を確かにされた。「神は約束のものを受け継ぐ人々に、ご計画の不変であることを、いつそうはつきり示そうと思われ、誓いによって保証されたのである」。主の約束を信じるわたしたちの信仰を強めるために、主がなし得ることがこれ以上あるであろうか。(ビュー・アソド・ハルド 1887 年 4 月 5 日)

9月14日

やさしくあわれみ深い父

「父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる。」(詩編 103:13)

わたしたちの神を、やさしい、あわれみ深い父として考えるべきである。神の奉仕を、心を悲しませ苦しめる行為としてみるべきではない。主を礼拝し、主の働きにあずかることは喜びであるべきである。神の民が救いの計画を瞑想する時、彼らの心は、愛と感謝で溶かされる。……

神は、かくも大いなる救いを与えられた子らが、まるで神が厳しく苛酷な労使を課する者であるかのように行動することを望んでおられない。主は、彼らの最高の友であり、彼らが主に礼拝する時、彼らと共にいて、祝福と慰めを与え、彼らの心を喜びと愛で満たそうとまっておられる。主は、ご自分の子らが主の奉仕において慰めを得、主の働きにおいて困難よりも喜びを見出すことを切望しておられる。主はご自分を礼拝に来る者が、日常の仕事全般に渡って喜びを得るように主の保護と愛についての尊い思いを受けて帰ることを望んでおられる。それによって彼らは、すべてのことにおいて正直で忠実な態度をとるための恵みを得るであろう。……

わたしたちが神を、わたしたちに判決を与えようとしている裁判官としてだけ考えて、愛情深い父であることを忘れるなら、わたしたちは神を辱めているのである。霊的な生命体は、わたしたちの神に対する理解によって形作られる。だから、もしわたしたちが主のご品性について誤った考えを心に抱くならば、わたしたちの魂は害を受けるであろう。わたしたちは神を、人の子らに同情し、善をなそうと切望しておられる方として見るべきである。……聖書全体を通して、神はご自分の優しい愛によって罪を犯したご自分の子らの心に呼びかけ、招いているお方として表されている。いかなる地上の両親も、神が救おうとしておられる者に対するようには、子供たちの過ちや過失を忍耐できない。罪人にこのように優しく嘆願できるものは他にいない。いかなる人間の唇も、主がなさる以上に、さまよう者に対して優しく懇願したことはなかった。わたしたちは神を愛せずにおられようか。謙遜な従順によってわたしたちの愛を示さないでおられようか。神に対するわたしたちの思いや、経験、また心の態度に注意しよう。なぜなら主のみ約束は、すべて言語に絶する愛の靈感であるからである。(ビュー・アソド・ヘアド 1890年1月14日)

救いの条件

「あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう。今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった。求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう。」(ヨハネ 16:23, 24)

日々キリストと共にいた弟子たちは、キリストの使命を理解していなかった。…彼らは、主の無限の資源と力とをよくわかっていなかった。彼らは主の奇跡を目撃していたにもかかわらず、主と天父との関係に気づいていなかった。キリストは死なれる前に、彼らに「今までは、あなたがたはわたしの名によって求めたことはなかった」と言われた。単純な言葉で、イエスは彼らの成功の秘訣が、ご自分の名で、天父に力と恵みを求めることであることを説明された。主は天父の前で彼らのために要求をされるべく立っておられる。……

わたしたちは、救いがわたしたちのものとなるための条件にもっと通じ、キリストがわたしたちと天父との間に作られた関係をもっと知る必要がある。御父は、わたしたちが恵みの御座に御子の名を示す時、それを尊ぶと誓われた。わたしたちはわたしたちのための天の織機で織られた義の衣を買うために払われた偉大な犠牲を考えるべきである。主はわたしたちを婚宴の席に招き、わたしたち一人一人に婚宴の礼服を備えられた。義の衣は、無限の代価で買い取られた。そしてもし婚宴の席につく者として自分自身の自己義認という普段着を着て来て出席しようとするならば、天に対する侮辱はどれほど大きいことであろうか。カルバリーで払われた犠牲に対してあからさまに侮辱し、神を何とはなはだしく侮ることになることであろう。……

婚宴の礼服を着ていない者は、誰も小羊の婚宴の晩餐を味わうことはない。しかしヨハネは「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられるのである。わたしは、その名をいのちの書から消すようなことを、決してしない。また、わたしの父と御使たちの前で、その名を言いあらわそう。」と記している。それゆえ、永遠に遅すぎってしまう前に、一人一人が白い衣と目薬、また火で精錬された金と天の恵みの油を求めて天の商人のところに行こうではないか。(ユース・インストラクター 1896年1月30日)

9月16日

イエスの名という力

「だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。」(ヘブル 4:16)

キリストはわたしたちの模範であり、わたしたちが従うために与えられた完全で聖なる手本である。わたしたちは模範であるお方と決して等しくなることはできないが、わたしたちの能力に応じてそのお方をまねし、似ることは可能である。わたしたちが罪の罪深さを自覚した結果、まったく無力なまま苦しんで倒れるとき、神のみ前に真の悔い改めと悔悟によって自分の魂を悩まし、自らをへりくだらせるとき、キリストの名によって神のみ前に熱心な祈りをささげるとき、わたしたちが真心から自分のすべてを神に完全におささげた通りに確実に、わたしたちは御父に受け入れられる。わたしたちのあらゆる努力は、内面においても外面においても全く価値がないものであるということを、魂の奥底から悟るべきである。なぜならば、わたしたちの勝利者キリストの名と力においてのみ勝利者となるからである。

もし、わたしたちがイエスのみ名を信じ、主のみ名によって神に嘆願するならば、顧みられないことはない。…わたしたちの助けは、ご自身の手にすべてのものを持っておられる神から来る。わたしたちの平安は、主の愛がわたしたちに向かって働いているという保証の中にある。もし、信仰がこの保証をつかむなら、わたしたちはすべてを得たのである。この保証を失うなら、すべてを失ったのである。わたしたちが持っているものと自分自身を神にゆだね、そして試練と、危険な立場に置かれサタンと接触する時、勝利者であられるお方のみ名と力によって敵に向かうなら勝利することを覚えておくべきである。すべての天使は、わたしたちがキリストにより頼むとき、敵に負けないようにわたしたちを助けに来るように任命されている。

しかしわたしたちは、苦しまないで勝利を得ることができると考えてはならない。なぜならば、イエスはわたしたちに勝利を得させるために苦しまれたからである。わたしたちが主のみ名において苦しむ時、また食欲を抑えるように要求される時、快樂を愛好する者から身を引くように求められる時、つぶやくべきではない。むしろ、永遠の救いを得るためにわたしたちの主が耐え忍んでくださった試練や犠牲、また克己や苦しみをほんのわずかでも、キリストと共に分け合う者となる特権を得たということを喜ぶべきである。(レビュー・アンド・ヘルド 1895年2月5日)

わたしは導きを祈り求める

「しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。」(イザヤ 40:31)

1896年2月14日金曜日。わたしは2時半に目が覚め、いつものようわたしの祈りに、わたしたちに対する主のやさしい愛情深い思いやりへの感謝をこめて、知恵と恵みを主に求めた。イザヤ 40:28－31のみ言葉が、わたしの心を占め、印象付けた。…

わたしの祈りはこうであった。わたしの天の父よ、あなたの知恵に全くより頼み、そして自己の理解力に頼らないように、わたしを助けて下さい。わたしのペンを手引きし、わたしの言葉を導いて、声とペンによってあなたに罪を犯すことがないようにしてください。わたしは恵みを必要としています。お願い致します。あなたの道を踏み誤ることがないように、あなたの真理をわたしに教えてください。主よ、わたしは全く弱い者です。しかしあなたは絶えず、あなたにより頼むあなたの民にとって、強さであり、力であり、勇気であります。…

1896年2月16日安息日。主はあわれみに富んでおられる。わたしはわたしの感謝の祈りが絶えず神に上がっていくことを望んでいる。わたしは神の恵みと変わる事のない愛をもっと深く感じる心を持ちたいと願う。わたしは日々の命の水を切望している。…わたしは絶え間なく、神にあって自分の力を持たねばならない。わたしの信頼は揺れ動いてはならない。どのような人間の力もわたしの魂とわたしの神の間に入り込んでではない。主がわたしたちの唯一の希望である。わたしは主を信頼する。そして主は、決して、決してわたしを裏切られることはない。主はわたしが決意のうちにある時、今までにわたしを助けてこられた。…

わたしは主に感謝し、主のみ名をほめたたえる。わたしはいつでも主に信頼することができるので主をほめたたえる。主はわたしを健全に保つ。そして主はわたしが走り込み、安全を得ることのできる力強いやぐらである。主は、わたしの必要を知っておられ、わたしが他の人に光を反射できるように、主のみ顔の光をわたしに与えて下さる。わたしは、失望も落胆もしない。天の父よ、わたしは力と恵みをくださるあなたを仰ぎ見ます。…わたしは常に主を讃美し、感情の高揚を待ったりはしません。そして主をほめたたえます。なぜなら、主は恵み深くそのあわれみは朝も昼も夜もわたしに伴っているからです。感情の高揚は、なんら証拠にはなりません。主のみ言葉がわたしの保証です。(原稿 62, 1896年)

9月18日

クリスチャンの保護手段

「絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。」(エペソ 6:18)

現代には、快楽への強烈な愛着や、恐ろしいほどの放縱の増加、またすべての権威に対する軽視が存在している。世の人だけではなく、クリスチャンと告白している人もまた、義務よりは、自分の好みに支配されている。キリストの言葉は、各時代を通して目を覚まして祈っていないと鳴り響いている(マタイ 26:41)。(レビュー・アンド・ヘラルド 1881 年 12 月 20 日)

注意深さと警戒が、人類の歴史の中で、今日これまでになく必要とされている。目は空しいものを見ることを止めなければならない。この時代に優勢となっている精神である不法は、断固として譴責を受けなければならない。誰にも、自分たちが危険な状態ではないと感じさせてはならない。サタンが生きている限り、彼の努力は、ノアの洪水の前のように世の中を悪くし、ソドムとゴモラの住民のように放縱なものにしようと、休みなく、たゆみなく続けられている。祈りは神を恐れる人々によって、日々ささげられる。そして主は彼らの心を悪の欲望から守り、誘惑に抵抗できるように、彼らの心を強められる。自己過信に陥って、注意深い警戒や絶えまない祈りの必要を感じない者は、早晩、屈辱的な墮落に陥る。自分たちの愛情を断固として守ることの重要性を感じない者はすべて、いつも不注意な者を罠にかけ、道をそらさせようとする者によって捕らえられてしまう。人は聖なる事柄の知識と神の働きに重要な立場を占める能力を持っているかもしれない。けれども、彼らが自分の贖い主を信じる単純な信仰を持たなければ、罠にかけられ、敵に打ち負かされる。

道徳的な力が非常に欠けているのは、注意深い警戒と祈りという義務が、悲しいほどに、非常におろそかにされているからである。これが信心深い様子をした多くの者が、それにふさわしい働きを推し進めていない理由である。宗教上の義務と永遠の事柄に対する不注意な無関心と世俗的な安心感が恐ろしいほど広まっている。神の言葉は「どんな時でも、祈り、目を覚ましてうむことがな」といようにと、わたしたちに勧告している。ここにクリスチャンの安全、彼の道を取り囲んでいる危険のただ中での主の保護がある。(同上 1881 年 10 月 11 日)

神にある静かな休息

「神よ、わたしをあわれんでください。わたしをあわれんでください。わたしの魂はあなたに寄り頼みます。滅びのあらしの過ぎ去るまではあなたの翼の陰をわたしの避け所とします。」(詩編 57:1)

わたしは神に従順であろうとする人々が、しばしばあてにならない人間の同情や助けに信頼を置いているのを非常に残念に思う。しかし神、生ける神は変わらないお方である。主は今日も昨日も永遠に、いつも親切でやさしく、あわれみ深く、愛情深い救い主であられる。サタンは、長い経験を持った人間も失敗を犯すのを知っているので現在全力で働いており、人間の心を不安定にするために、あらゆる手段を尽くしている。しかしイエスは誤ることのないお方である。……神に完全により頼みなさい。祈りなさい、祈りなさい、祈りなさい、信仰を持って祈りなさい。そして神にあなたの魂の保護を委ねなさい。彼はご自分に委ねられたものをかの日まで守られる。……へりくだって神と共に歩みなさい。主は、人間の魂を取り巻いているすべての嘆きや悲しみ、また試練をご覧になる。そしてどのようにいやすかを知っておられる。……

神にあつてあなたは、勇気を持って行うことができる。祈りにおいて主に語り、歩みながら主に語りなさい。「わたしはあなたに求め、あなたに従い、あなたに仕えます。わたしはあなたの翼の陰に宿ります。み心のままにわたしに命じて下さい。わたしはあなたの声に従います。」常に天の導きに従いなさい。試練が訪れる時、あなたの魂に忍耐を保ちなさい。主を待ち望みなさい。そしてあなたの誠実さを神の力のうちにしっかりとつかんで、あなたの周りにいるすべての者の永遠の益を求めることをあなたの一つの目的として目をとめていなさい。主はご自分の約束を果たされる。あなたのパンは用意され、水も与えられる。これは単にこの世のパンや水ではなく、永遠の命のパンと水を意味している。

神にあつて立ちなさい。主の恵みの芳しい影響のもとで働きなさい。信徒の心を清める神の真理は、信徒の生活を導く。わたしたちは強く、そしてしっかりと立つことができる。もしあなたが、土の器である人間により頼むなら、それらはしばしばあなたの手で折られ、これからも折られるような葦に寄りかかっていることになる。完全に、そしてしっかりと神により頼みなさい。主は靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君であられる。わたしたちは良心を汚れなく保つことができる。神にあつて平和にそして静かに休息することができるのである。(手紙 126, 1895 年)

9月20日

弱い努力は不十分である

「神よ、わたしの叫びを聞いてください。わたしの祈に耳を傾けてください。わが心のくずおれるとき、わたしは地のはてからあなたに呼ばわれます。わたしを導いてわたしの及びがたいほどの高い岩にのぼらせてください。」(詩編 61:1, 2)

わたしたちが重荷を負い、激しく誘惑され、生まれながらの感情と欲望が勝利を得ようと戦う時、イエスの名において天の父に、熱心にうむことのない祈りをささげるべきである。これによりイエスはわたしたちの助けとなられ、主の全能で力あるみ名を通して、わたしたちは勝利を得、わたしたちのかたわらからサタンを追い出すことができる。しかし、自分自身のために弱々しい努力しかしていないのに、安全であると思ひ込むべきではない。……「狭い戸口からはいるように努めなさい」(ルカ 13:24)。

危険は世の反対によって引き起こされるのではなく、むしろ、世とわたしたちが友となり、そして神をも真理をも愛さない人々を手本とする傾向のうちに見いだされる。真理のために地上のものを失い、原則に忠実であるために大変な不自由に苦しむことは、わたしたちの信仰と希望を失わせる危険とはならない。しかしサタンの誘惑によって欺かれ、打ち負かされるとき、失う危険がある。試練はそれを受け入れ、つぶやかずに耐えるならば、わたしたちの善のために働く。そしてわたしたちを世の愛から引き離し、神をもっと完全に信頼するように導く。

神にのみわたしたちの助けがある。自分自身に何らかの力と知恵があるとうめぼれるべきではない。なぜなら、わたしたちの強さは弱さであり、判断は愚かだからである。キリストはわたしたちのために勝利された。それは主がわたしたちの弱さをあわれまれ、もしご自分が助けに来られないならば、わたしたちが負かれ、滅ぼされることを知っておられるからである。主は神性を人性で覆われ、このようにして主は人性の腕で人間を、そして神性の腕をもって無限なるお方のみ座をつかむのにふさわしいお方となられたのである。キリストのいさおしは、人類を高め、高貴にし、キリストのみ名を恵みを通して墮落に勝利することを可能にし、キリストの高められた聖なるご品性によって無限なるお方に結びつけられたのである。(ビュー・アソド・ヘルド 1895 年 2 月 5 日)

力があり効果のある祈り

「義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。」(ヤコブ 5:16)

真の礼拝者のまじめで謙遜な祈りは、天にのぼっていく。イエスはわたしたちのへりくだった嘆願に、主ご自身の功績という聖なる香りを混ぜてくださる。主の義によってわたしたちは受け入れられる。キリストは、わたしたちの祈りを主の義の香りによって、完全に効果のあるものとしてくださる。危険に満ちた今日、わたしたちはヤコブのように勝つ人を必要としている。世の贖い主が、ご自分が去られた後に、ご自身の代表者として聖霊を送ると約束されたことを感謝しなさい。祈り、そして神の豊かな約束をつかもう。そして、聖霊がわたしたちの必要を満たすと定められているわたしたちの熱心で謙遜な懇願に比例して、神を誉めまわろう。もしわたしたちが心から、神を求めるなら、わたしたちは主を見出し、約束の成就を得る。(手紙 13, 1894 年)

主と主の真理を愛する者は、人目につかない場所を求めて、2、3人が協力し、牧師への神の祝福があるように祈りなさい。彼は絶えず非常に多くの要請に応じて、予定をした集まりに出席し、また会議にのぞみ、質問に答え、忠告を与え、大切な手紙を書くことなどで祈る時間さえもなかなか見つけられないからである。力があり、効果のある義人の祈りが神のもとにのぼっていくようにしよう。そして語られた言葉は、聞く人の心に達する真理のメッセージとなり、それによって魂がキリストに勝ち取られる。(ビュー・アンド・ワールド 1883 年 7 月 24 日)

クリスチャンであるために、偉大な才能は必要ない。主のみ心を行いたいと願う人によって深く罪を悔いている心からささげられた熱心な祈りは、雄弁な話よりも神の目にもっと価値のあるものとされる。人は国会において発言権を持っていないかもしれない。また議会で討議したり、国会で投票したりすることも許されてはいないかもしれない。しかし、彼は神のところに近づくことができるのである。王の王は、謙遜な深く罪を悔い改めている心から出た祈りを聞こうとして身がかがめておられる。神は信仰の香りと共にささげられるどの祈りをも聞かれる。神の一番弱い子供も天の会議に調和した影響力を働かせることができるのである。(原稿 56, 1902 年)

9月22日

祈りと告白についてのダニエルの模範

「それでわたしは、わが顔を主なる神に向け、断食をなし、荒布を着、灰をかぶって祈り、かつ願い求めた。」(ダニエル 9:3)

祈りと告白についてのダニエルの模範は、わたしたちへの教えと激励のために与えられている。……ダニエルは、イスラエルの捕囚の定められた期間がほとんど終わりに近づいていることを知っていた。しかし彼は神が彼らを解放すると約束しておられるので、彼ら自身の行動の余地はないとは思わなかった。断食と深い悔い改めをもって、彼は主を求め、彼自身の罪と、民の罪を告白した。……

ダニエルは自分自身の徳を土台として、嘆願するのではなく、「わが神よ、耳を傾けて聞いてください。目を開いて、われわれの荒れたさまを見、み名をもってとなえられる町をごらんください。われわれがあなたの前に祈をささげるのは、われわれの義によるのではなく、ただあなたの大きいなるあわれみによるのです」と彼は言うのである(ダニエル 9:18)。彼の願いの強さが、彼を真剣で、力ある者とした。彼は「主よ、聞いてください。主よ、ゆるしてください。主よ、み心に留めて、おこなってください。わが神よ、あなたご自身のために、これを延ばさないでください。あなたの町と、あなたの民は、み名をもってとなえられているからです」と続けている(同 9:19)。……

なんという祈りがダニエルの唇から出たことであろう。この言葉はなんという魂の謙遜さを表していることであろうか。天来の火の暖かさが、神に上っていった言葉の中に認められた。天はダニエルに天使をつかわして、その祈りに答えられた。今日も同じようにささげられる祈りは、神に勝つのである。「義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである」(ヤコブ 5:16)。古代において、祈りがささげられた時、火が天から降って祭壇の上の犠牲を焼き尽くした。そのように、わたしたちの祈りに答えられる時も、天の火がわたしたちの上で下ってくる。聖霊の光と力はわたしたちのものとなる。……ダニエルの祈りを聞かれたその神は、わたしたちが悔い改めて主の許に行く時、祈りを聞かれる。わたしたちの必要が緊急であり、困難が大きいほど、わたしたちは同じように強い目的を持つ必要がある。信仰によって、重荷を負ってくださる偉大なお方に、わたしたちの重荷を負っていただくことができる。今日、ダニエルが祈った時と同じように、心に深い感動を持つ必要がある。(ビュー・アンド・ワルド 1897年2月9日)

密室の祈りの大切さ

「民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。そのみ前にあなたがたの心を注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」(詩編 62:8)

わたしたちの求めているものに対する深い欠乏感と強い希望が、わたしたちの祈りの特徴にならないといけない。さもないとそれは聞かれない。しかし答えがすぐに与えられないからといって嘆願することにより疲れたり、それを止めたりすべきではない。「天国は激しく襲われている。そして激しく襲う者たちがそれを奪い取っている」(マタイ 11:12)。ここで激しく襲うというのが意味しているのは、ヤコブが表したような聖なる熱心さである。わたしたちは自分を激しい感情に煽り立てる必要はない。むしろ静かに根気強く、恵みのみ座に嘆願し続けるべきである。わたしたちの仕事は、自分の罪を告白して、そして信仰によって神に近づき、神の前にわたしたちの魂を謙遜にすることである。……ご自分の摂理と恵みによってご自分を表されるのが、神のご計画である。わたしたちの祈りの目的は、神の栄光のためであり、自分の栄光のためであってはならない。

神はどれほどわたしたちの価値を認めておられるかを示すことによって、わたしたちに名誉をお与えになった。わたしたちは神のみ子の尊い血潮という価によって買い取られている。主の教会が良心的に、主の言葉に従う時、主の祝福は彼らの祈りに答えられることによって彼らの上に留まる。「主は言われる、『今からでも、あなたがたは心をつくし、断食と嘆きと、悲しみとをもってわたしに帰れ。あなたがたは衣服ではなく、心を裂け』。あなたがたの神、主に帰れ。主は恵みあり、あわれみあり、怒ることがおそく、いつくしみが豊かで、災を思いかえされるからである」(ヨエル 2:12, 13)。(ビュー・アッド・ワルド 1897年2月9日)

密室の祈りにおいて魂は、神の(綿密にご覧になる)目にあらわされる。……密室の祈りは、なんと大切なものであろう。魂は神と交わるのである。密室の祈りは祈りを聞いておられる神にのみ聞かれるべきものである。いかなる好奇心を持つ耳も、嘆願の重荷を受け取るべきではない。静かにしかし力強く、魂は神を求めて、手を伸ばすべきである。隠れたことをご覧になる主、心から上ってくる祈りに耳を傾けられる主から流れる影響力は、やさしくそして不変的なものである。単純な信仰で神と交わる者は、サタンとの戦いにおいて自分を強めてくださる天の光の光線を、自分に集めるのである。

9月24日

清い流れのような讃美

「いと高き者よ、主に感謝し、み名をほめたたえるのは、よいことです。あしたに、あなたのいつくしみをあらわし、夜な夜な、あなたのまことをあらわすために、」（詩編 92:1, 2）

真理が正しく評価される時、わたしたちは神の大きいなるあわれみと、慈愛がどういうものかを知る。わたしたちがつぶやくために自分の経験における暗い章を振り返るのではなく、わたしたちを解放された時にあらわされた神の大きいなるあわれみ、また尽きることのない愛と力のあわれみを振り返ってみる時、つぶやくどころか、讃美するのである。ご自分の群れに対する真実でやさしい聖なる羊飼いとて、わたしたちは神の愛情深い誠実さを語る。神はだれにもご自分の手から奪わせたりはしないと宣言された心から出る言葉は利己的なつぶやきや、不平ではなく、清い流れのような讃美が、神の真実の信徒たちからあふれ出る。……

主は豊かな源であられる。主が能力に欠けておられることはない。暗い陰がわたしたちのまわりに集まるのは、わたしたちの信仰の欠如、わたしたちの世的傾向、安っぽい話、不信仰のためである。……

神の宮は天で開かれており、敷居は栄光に輝いている。それは、神を愛し、彼の戒めを守るすべての教会のためである。わたしたちは学び、瞑想し、祈る必要がある。その時わたしたちは天の宮の内にある庭を見る霊的な目を持つであろう。わたしたちはみ座をとり囲む天の聖歌隊の歌と感謝の祈りの主題を理解するであろう。シオンが立って光を放つとき、その光は最高に刺し貫き、賛美と感謝の尊い歌声が聖徒の集まりの中で聞かれるであろう。少しの失望や困難に対する、つぶやきや不平、また嘆きは消えてなくなるであろう。金の目薬をつける時、かなたに栄光を見るであろう。信仰はサタンの黄泉の陰を切り開き、わたしたちのために主ご自身の功績の香をささげておられる聖なる仲保者を見るであろう。……

この地上で神を賛美しよう。そして天で、天の仲間と一つになろう。その時わたしたちは、信じるすべての者の力なる真理をそのまま伝える者となる。（手紙 138, 1897 年）

イエスの即位記念祭？

「わたしの舌はひねもすあなたの義と、あなたの誉とを語るでしょう。」(詩編 35:28)

わたしが英国にいた時、ある日、道で大きなパレードに出会った。それはビクトリア女王即位 60 年祭(1897 年)であった。だれもがそれについて話していた。店の飾り窓には、女王の写真がたくさん飾られ、だれもが英国の女王をほめそやしていた。もし、わたしたちが飾り窓から女王の写真や、女王の栄光のしるしをとって、その代わりに、イエスの栄光と主のしるしをおいたなら、人々はわたしたちを宗教的狂信者とみなさなかつたであろうか。彼らは、わたしたちがあまりにも宗教を持ちだしすぎると考えることであろう。……しかしわたしたちの主は、王衣を脱いで栄光の冠をわきへ置かれたのではなかったか。主は、神性に人性をまとわれて人間の犠牲として死ぬためにこの世界に來られたのではなかったか。わたしたちはそれについて話さないでおられるだろうか。主の比類のない愛を力強く語らずにおられようか。

わたしたちの舌が麻痺状態をとかれ、主への讃美を語るように。人間の魂を襲った霊的無感覚が取り除かれ、イエス・キリストの御顔にある神の栄光を見ることができるよう。わたしたちは、地上における主の代表者であるべきである。……主は暗闇に座っている者たちにあなたを通して天の光を伝えることができる。主を知っていると主張してきたあなた、主は恵み深いことを味わい知り、悟ったと告白するあなたはそれをまわりの人々に現わすべきである。あなたを暗闇からご自分の驚くべきみ光に招き入れてくださった主への讃美をはっきり示さない。もし人が、女王の即位記念祭にそれほど大騒ぎをするならば、また彼らが限りある存在にこれほどまでの熱狂を表すことができるならば、命の君の栄光を語ることができないということはない。主は間もなくご自身に従ってくる疲れ傷ついた者たちを連れて行くために王として来ようとしておられ、死という獄屋の錠を開き、とらわれた者を自由にし、主が愛される者を眠りから覚まし、栄光の不死を与えようとしておられる。なぜキリストはわたしたちの会話の中で、取り上げられないのであろうか。わたしたちは、ふるさとに近づいている。疲れた十字架の兵士たちに勇気を語ろうではないか。……地上の寄留者や旅人に、わたしたちがより良い御国、天の御国に行くのだと告げようではないか。(ビュー・アソド・ヘルド 1890 年 2 月 11 日)

9月26日

真理のために苦しむこと

「わたしがあなたがたに『僕はその主人にまさるものではない』と言ったことを、おぼえていなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害するであろう。」(ヨハネ 15:20)

人は神と協力する特権を持つために、何をするであろうか。キリストを捨てるよりは、自分の持っているすべてを捨てるであろうか。……真理のために、迫害に耐えるであろうか。非難と迫害は多くの魂を天国から引き離した。しかし一つとしてキリストの愛から魂を引き離すことはなかった。かつて迫害が、イエス・キリストを心から愛している魂をキリストから引き離したことは一度もなかった。心の中にあるイエスの愛は、すべての者をとらえる。なぜならわたしたちを愛された神の偉大なる愛は、わたしたちにキリストを与えることによって表されており、これに匹敵する愛はないからである。「神はそのひとり子を賜ったほどにこの世を愛してくださった」……

もしわたしたちが主のみ名のために迫害に耐えることができるならば、主の愛はわたしたちの心を支配する力となる。なぜなら、わたしたちは何ものもキリストの愛からわたしたちを引き離すことはできないという保証を持っているからである。

嵐のような試練に苦しむ魂が、真理のために非難に苦しんでいる時以上に救い主の心から愛されている時はない。真理のために、信者が不義の法廷に立たされる時、キリストは彼のかたわらに立ってくださる。信徒の上に降りかかった非難はすべて、主の聖徒の内におられるキリストの上にふりかかっているのである。キリストは「わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう」(ヨハネ 14:21)と言われた。キリストは弟子たちのうちにあって何度も非難される。真理のために信徒が刑務所に投獄される時、キリストはご自身を彼にあらわされ、主の愛で彼の心をとらえる。人がキリストのために死ぬとき、キリストは彼に「彼らは肉体は殺しても魂を傷つけることはできない」と言われる。「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」(ヨハネ 16:33)。(手紙 116, 1896 年)

使徒はわたしたちに「キリストの名のためにそしられるなら、あなたがたは幸いである。その時には栄光の霊、神の霊が、あなたがたに宿られるからである。彼(キリスト)は彼らの間では冒瀆を受け、あなたがたの側ではあがめられている」と言っている。あなたは自分自身に、「わたしの救い主は、天の宇宙の前で、サタン軍勢の前で、そして世の前でわたしによってほめたたえられているであろうか」と問いなさい。(同上 82, 1895 年)

試練を通じての力強さ

「神よ、あなたはわれらを試み、しろがねを練るように、われらを練られた。」(詩編 66:10)

試練を受けていない品性は、あてにならない。わたしたちは神に知恵を求めることを学ぶために、そして悩みの時に堅固なよりどころに逃れることを学ぶために、試練によって試みられるべきである。神の助けと恵みを得る者だけが、誘惑に抵抗することができる。わたしたち一人一人がわたしたちの最初の両親が経験したように一精神と心を悪事にそそのかす多種多様の試みに直面するのである。全天はわたしたちがイエスにより頼み、神のみ旨に自分を従わせるか、あるいは誘惑に会う時、生まれながらの心の傾向と悪しき者のそそのかしに従ってしまうかどうかを、強い関心をもって見つめている。(ユース・インストラクター 1895 年 9 月 26 日)

試練に当惑している者に、祈りによって神のところへ行かせなさい。……たゆまず祈り、疑わないで目を覚ましていなさい。そうすれば、聖霊は人間に働いて頭脳と心を正しい原則に服従できるようにしてくださる。(同上 1895 年 9 月 19 日)

信仰によって、神の力に守られる者は、善なる尊い事柄を学ぶ。彼らは、理解力を越えた神の平安を経験する。誘惑に抵抗することにより、あなたはサタンとの同盟に参加することを否定し、自分自身をイエス・キリストの旗の下に置く。天の住民の前であなたは自分を勝利者として成長させる。あなたが神の子であることが明らかにされる。……

あなたは品性の真の美德によってキリストを表し、次の言葉が何を示すのかを理解する。それは「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた。……わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた」(ヨハネ 1:14, 16) というみ言葉である。あなたは恵みを受け、恵みを大きくし、あなたの言葉に、精神に、また行動に恵みを表す時、神はあなたにもっと大きな恵みを注がれる。あなたは聖霊の働きに自分自身をゆだねることに比例して、天の恵みを受ける。あなたは尊い器に形造られ、形成され、神がご自身の恵みを世にあらわす通路となる。(同上 1895 年 9 月 26 日)

9月28日

試練の輝かしい実

「こうして、あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変わるであろう。」(ペテロ第一 1:7)

たとえ火のような試練を受けても、イエスを信じ、絶対的に彼を信頼しよう。……主の愛を瞑想し語ることによって、もっとキリストを愛し、そして主を愛する能力を増すことができる。一人でいる時も、歩いている時も、働いている時も、救い主と語る習慣をつけなさい。感謝と賛美を神にささげなさい。なぜならイエスはあなたを愛し、あなたはイエスを愛しているからである。……

主イエスは、ご自身をわたしたちのための犠牲としてお与えになった。主はわたしたちを知っており、わたしたちの必要を知っておられる。試練はほんのしばらく続くだけである。信仰によってあなたの心を励ましなさい。試練を刑罰と思っではならない。キリストが罪を負われるお方である。彼は贖い主であり、わたしたちをあらゆる不純物から清めようと望んでおられる。彼はわたしたちを神性にあずかる者とし、義の穏やかな実をわたしたちの中に育てようとしておられる。わたしたちが試練に耐えるように召されているという事実が、主イエスが育てようと望んでおられる何か大切なものをわたしたちの中に見ておられるという証拠である。主のみ名に栄光を帰すような何かをわたしたちのうちに見出さなければ、主はわたしたちを精錬するために時間をかけたりはなさらない。いばらを刈り込むのに特別な手間をかけたりしない。キリストは無価値な石をご自分の炉の中に投げ込みはしない。彼が試されるのは貴重な鉱石である。主は精錬の過程が、このお方ご自身のみ姿を写し出すものであることを知っておられる。信頼し、望みを抱き、強く主と主の力の支配の中にいなさい。神はあなたを愛しておられる。「すべてわたしの愛している者を、わたしはしかったり、懲らしめたりする」(黙示録 3:19)と言う主の言葉を聞きなさい。このお方は試みる価値がない者としてあなたのそばを通りすぎたりはなさらなかった。

この精錬の過程の結果は何であろうか。「イエス・キリストのあらわれるとき、賛美と栄光と誉れとに変わるであろう」と言われている。救い主の唇から出る一つの賞賛の言葉が、なんと魂に尊いことであろう。わたしたちは今すべてを理解することはできない。しかしただ満足するだけではなく、試練が思いも及ばないほど素晴らしい永遠の栄光の重みをわたしたちにもたらしたということを知る時が近づいている。(手紙 113, 1898 年)

なぜこのような苦しみが？

「苦しみにあったことは、わたしに良い事です。これによってわたしはあなたのおきてを学ぶことができました。」(詩編 119:71)

わたしたちが苦しみ会遇到時、神の怒りが下ったと考えてはならない。神はわたしたちをご自分に近く引き寄せるために試練を与えられる。詩編記者は「正しい者には災が多い。しかし、主はすべてその中から彼を助け出される」(詩編 34:19)と言っている。主はわたしたちを疑惑と言う雲の下に置くことを望まれない。……このお方はわたしたちが心を苦しませることを望んでおられない。わたしたちは日常の経験で、いばらとあざみを見るべきではない。神のみ言葉の園に入って、み約束と言うユリやバラや、香しいなでしこを摘むべきである。自分たちの経験における、困難を見つめる者は、疑いと失望を語る。なぜなら世の罪を取り除く神の小羊であるイエスを眺めないからである。

自分の心を神の愛とあわれみと慈悲の上に置くべきである。……疑いと失望を経験したからと言って、イエスがわたしたちを愛するのを止められたというしるしにはならない。キリストがわたしたちの救い主であり、このお方のうちに愛と慰めがあることを悟るために、苦しみは神のみ摂理のうちにわたしたちに訪れる。わたしたちは恵みを受けることによって、勝利者となり、神の命ではかれる命を受け継ぐ者となる。苦しみがわたしたちに訪れるとき、信仰から離れないような経験を持たなければならない。

信仰の手によってみ約束をつかみ、有利な立場に立ちなさい。その時あなたはサタンが近寄ってきて「神はあなたを助けることはできない。なぜならば、あなたは罪を犯し、み約束を求めることはできないからである」と言うことのできない場所にいるのである。敵は命への道は非常に困難なので、天の喜びにあずかることは不可能であると考えさせようと望んでいる。しかし神はわたしたちの性質の最も良いところが発達し、最高の能力が訓練されるような環境にわたしたちをおかれた。もしわたしたちが善を養うならば、好ましくない傾向が主権を握ることではない。そしてついに天の家族と連なる価値がある者とみなされる。もし天で聖徒でありたいと願うならば、地上で聖徒とならなければならない。(手紙 97, 1895 年)

あなたの悩みを神に持って来なさい

「わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。あなたがたの知っているとおり、信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである。だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。」（ヤコブ 1:2 - 4）

神のみ言葉はわたしたちが誘惑に陥った時、喜ぶべきだとは言っていない。それは誘惑にあった時と言っているのである。誘惑に屈する必要はない。なぜなら誘惑はわたしたちの信仰を試すために訪れるものだからである。そしてわたしたちの信仰の試みは、忍耐を養うものであって、不平や不満を養うものではない。もしわたしたちがイエスを信頼するなら、主はわたしたちを常に守り、わたしたちの力と盾になってくださる。わたしたちは試みから貴重な経験を学ぶべきである。パウロは「患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである」（ローマ 5:3, 4）と言っている。

多くの人は、試練に屈しないのは不可能だと考えているようである。そのため、彼らは勝利する力を持っていない。そして信仰と勇気の代わりに、失望と疑いを語ることによって、彼らの唇で神に罪を犯しているのである。キリストはあらゆる点でわたしたちと同じように試みられたが、罪を犯されなかった。主は「この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない」（ヨハネ 14:30）と言っておられる。これは、どういう意味であろうか。それはキリストを誘惑するために、悪の君は有利な立場に立つことができなかったということを意味している。そしてわたしたちもそうなれるのである。……

わたしたちが失望や憂鬱を語る時、サタンは残酷な喜びをもって聞く。なぜならば、わたしたちを彼の奴隷にしたことを知るの彼を喜ばせるからである。サタンはわたしたちの思いを読むことはできない。しかし彼はわたしたちの行動を見、言葉を聞くことはできる。そして人間についての十分な知識から、わたしたちの性格の弱い点をつく誘惑を考案することができるのである。そしてなんとしばしば、わたしたちは彼がわたしたちに勝利する秘訣を彼に与えてしまうことであろうか。（ビュー・アノド・ヘアルド 1891 年 5 月 19 日）

わたしたちは、子供が両親のところへ来るように、いついかなる危急の時にも神のもとへ来ることを学ばなければならない。……自分の試みや誘惑の時に他の人のところへ行ってはならない。神のみがあなたを助けることができる。神のみ約束の必要条件を満たすなら、約束はあなたに成就される。……あなたはしっかりと、かつ確実な錨を魂に持つのである。（同上）

研究 2

神の栄光ともう一つの声



「神の栄光とは何か？」

神の栄光のため—これが人の創造の目的であることを見ました。創造主は、栄光を受けられなくなった罪人を再創造なさることにより、これを回復し、全地を照らすまでにみわぎを成し遂げられると預言されています。

それでは、神の栄光とは何でしょうか？

神の栄光とは何か？ (全般的に言葉の意味として)

旧約聖書では、ヘブル語で「カボデ (dAbK'kabowd{kaw-bode'}, まれに dboK'kabod{kaw-bode'})」という言葉が 189 節に登場し、そのうち栄光と訳されているのは 154 回です。

サムエル上 4:21 に「ただ彼女は「栄光はイスラエルを去った」と言って、その子をイカボデと名づけた」とあるのは、この言葉に由来しています。その「カボデ」の意味を辞書で見ますと、

1) 栄光、誉れ、栄光に満ちた、豊かさ 1a) 富 1b) 輝き, 1c) 威厳 1d) 高い評価 1e) 敬神, 1f) 栄光とあります。

一方、新約聖書では、ギリシャ語で「ドクサ (do,xadoxa)」という言葉が 151 節に登場し、栄光と訳されているのが 111 回です。その意味は下記の通りです。

1) 意見、判断、見解

2) 意見、評価、良くも悪くも人に関する評価 2a) 新約では、必ずだれかに対する良い意見、結果として讃美、誉れ、栄光となるもの

3) 輝き, 明るさ 3a) 月、日、星の明るさ 3b) 壮麗, 卓越, 傑出, 威厳, 恵み 3c) 大能

4) 最も栄光に満ちた状態、最も高められた状態、4a) 天、すなわちキリスト

が地上での働きをなし遂げられた後に引き上げられた天におられる父なる神の状態 4b) 栄光に満ちた祝福の状態であり、真のクリスチャンが救い主が天から戻られたあとに入ることを定められ、約束されている状態

天におられる神の状態、それが栄光であり、そこに贖いによって天へ迎え入れられた者たちが入ることを約束されているとあります。その実例として、キリストが来られる前に表された神の栄光を見てみましょう。

「ヤコブはわれわれの父の物をことごとく奪い、…すべての富(栄光)を獲た」(創世記 31:1)。

これは、ヤコブがラバンの下で働き財産が増し加わったときに、ラバンの子らが言った言葉ですが、ヤコブが持っている栄光は、すべて父から受けたものだと述べています。また、ヨセフは助けを求めに来た自分の兄弟たちに、エジプトの国のつかさとして自分の持っているすべてのものに注意を向けさせ、次のように告げました。

「あなたがたはエジプトでの、わたしのいつさいの栄え(栄光)と、あなたがたが見るいつさいの事をわたしの父に告げ」(創世記 45:13)。

それは、確かに外面だけでも内面だけでもなく、カポデの言葉の意味通りの一切を表していました。

また、長い奴隷生活のうちに神の知識を失ってしまったイスラエルの民は、実際に目に見える形で神の栄光を示されました。

「また、朝には、あなたがたは主の栄光を見るであろう。…彼らが荒野の方を望むと、見よ、主の栄光が雲のうちに現れていた」(出エジプト記 16:7,10)。

「主の栄光がシナイ山の上にとどまり、雲は六日のあいだ、山をおおっていた……」(出エジプト記 24:16,17)。

「そのとき、雲は会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。」(出エジプト記 40:34,35)。

「またあなたの兄弟アロンのために聖なる衣服を作って、彼に栄えと麗しきをもたせなければならない」(出エジプト記 28:2,40)。

「われわれの神、主がその栄光と、その大いなることを、われわれに示されて、われわれは火の中から出るその声を聞きました。きょう、われわれは神が人と語られ、しかもなおその人が生きているのを見ました」(申命記 5:24)。

このように神の栄光が、罪のゆえにそれを受けられなくなっている人間に示されました。

しかし、神がご自分の持つておられる一切のものを人に示し、これを人にもう一度回復したいと思っておられること一つまり、人が何のために創造されたか—

を知った人が、そのみ思いに应えて、これまでだれもしたことのない要求をしました。

モーセの願い

「モーセは言った、「どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください」(出エジプト記 33:18)。

これに、答えて「『主は言われた、『わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ』」(出エジプト記 33:19)。

モーセは見ることを願いましたが、神は彼に聞かせられました。なぜなら、その時はそれが人に示すことのできる精いっぱいだったからです。

しかし、その願いを起こさせてくださった神は、その祈りを決してお忘れにはなりませんでした。世の初めから、そのためのご計画は立てられていました。キリストをつかわされることによって、その祈りは答えられたのです。ヨハネの次の証を見ましょう。

「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた」(ヨハネ 1:14)。

「神を見た者はまだひとりもない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである」(ヨハネ 1:18)。

「『もしあなたがたがわたしを知っていたならば、わたしの父をも知ったであろう。しかし、今は父を知っており、またすでに父を見たのである』。ピリポはイエスに言った、『主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下さい、わたしたちは満足します』。イエスは彼に言われた、『ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。どうして、わたしたちに父を示してほしいと、言うのか』」(ヨハネ 14:7-9)。

このお方は、神の栄光を見せるために来てくださいました！

それでは、わたしたちはどのようにしてその栄光を見ることができるでしょうか。モーセに戻って、見ましょう。

栄光を見る方法

「そして主は言われた、「見よ、わたしのかたわらに一つの所がある。あなたは岩の上に立ちなさい。わたしの栄光がそこを通り過ぎるとき、わたしはあなたを岩の裂け目に入れて、わたしが通り過ぎるまで、手であなたをおおうであろう。」(出エジプト記 33:21,22)。

「モーセが神の栄光を見たのは、彼が岩の裂け目にかくれたときであった。わたしたちも裂かれた岩なるキリストの中にかくれるときに、キリストはご自分の裂かれたみ手をもって、わたしたちをおおってくださるのである。そして、わたしたちは、主がそのしもべたちに言われることを聞くことができるのである。神は、モーセにあらわされたと同じように、わたしたちにも、『あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、いつくしみを千代までも施し、悪と、とがと、罪とをゆるす者』としてご自分をあらわしてくださることであろう(出エジプト記 34:6,7)」(キリストの実物教訓 162)。

「あなたは、つえをと、あなたの兄弟アロンと共に会衆を集め、その目の前で岩に命じて水を出させなさい。こうしてあなたは彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませなさい」(民数記 20:8(9-11))。

この岩は、「キリスト」です(コリント第一 10:4)。

神の答え

「主は彼の前を過ぎて宣べられた。「主、主、あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみと、まこととの豊かなる神、…」(出エジプト記 34:6,7)。

「『どうぞ、あなたの栄光をわたしにお示してください』。この栄光は何であろうか？
一神のご品性である。このお方がモーセに述べられたのはこれである」(牧師への証 499)。

モーセの願いに応じてその時に神が示してくださったのは、わたしたちがいま受けるべき神の栄光、すなわち神のご品性でした。

「神の栄光の光、すなわち、神の品性が、神に従う者のなかに輝き出なければならぬ」(キリストの実物教訓 414)。

なぜモーセはこれを願ったのか？

それでは、モーセはなぜこれを願ったのでしょうか。その背景を見てみます。

「『それで、わたしをとめるな。わたしの怒りは彼らにむかって燃え、彼らを滅ぼしつつすであろう。しかし、わたしはあなたを大いなる国民とするであろう』…あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルに**あなたが御自身を**さして誓い、『わたしは天の星のように、あなたがたの子孫を増し、わたしが約束したこの地を皆あなたがたの子孫に与えて、長くこれを所有させるであろう』と彼らに仰せられたことを覚えてください』。それで、主はその民に下すと言われた災について思い直された」(出エジプト記 32:10,13,14)。

すべては、神にかかっていました。罪人が許される望み、生きる望みは、ただ神のみ名、すなわちこのお方の栄光にかかっていたのです。モーセはそこに訴えました。

「わたしこそ、わたし自身のためにあなたのとがを消す者である。わたしは、あなたの罪を心にとめない」（イザヤ 43:25）。

「わたしは自分のために、自分のためにこれを行う。どうしてわが名を汚さることができよう。わたしはわが栄光をほかの者に与えることをしない。」（イザヤ 48:11）。

「主は言われた、『わたしはわたしのもろもろの善をあなたの前に通らせ、主の名をあなたの前にのべるであろう。わたしは恵もうとする者を恵み、あわれもうとする者をあわれむ』（出エジプト記 33:19）

主のみ名に訴えたモーセの嘆願は、さらに続きます。人が創造された目的は、神の栄光であることを告げるイザヤ 43 章のはじめに、神はこう言われました。

「ヤコブよ、あなたを創造された主はこう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はいまこう言われる、『恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ』（イザヤ 43:1）。

そこで、その約束を手しに、次の嘆願をしました。

「今もしあなたが、彼らの罪をゆるされますならば――。しかし、もしかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください」。主はモーセに言われた、『すべてわたしに罪を犯した者は、これをわたしのふみから消し去るであろう』（出エジプト記 32:32,33）。

「あなたはかつて『わたしはお前を選んだ（名をもって知っている）。お前はまたわたしの前に恵みを得た』と仰せになりました」（出エジプト記 33:12）。

主の答えは何だったのでしょうか？

「主はモーセに言われた、『あなたはわたしの前に恵みを得、またわたしは名をもってあなたを知るから、あなたの言ったこの事をもするであろう』（出エジプト記 33:17）。

「ヤコブよ、あなたを創造された主はこう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はいまこう言われる、『恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ』（イザヤ 43:1）。

その品性、つまり栄光は十字架を通して表された

モーセにその栄光が表された岩の裂け目は、どこにあるでしょうか。

パウロは、自分が隠された場所について、次のように述べています。

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあつてはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである」（ガラテヤ 6:14）。

イエスは、御父の栄光を表すために来られましたが、そのための「時」があると言われました。

「すると、イエスは答えて言われた、『人の子が栄光を受ける時がきた』』

『父よ、み名があがめられますように（み名に栄光が帰せられますように）』。すると天から声があった、「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれ（栄光）をあらわすであろう』

「イエスは答えて言われた、『この声があったのは、わたしのためではなく、あなたがたのためである』」そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう」（ヨハネ 12:23,30,32）。

天からの声が「栄光をあらわした」ことを告げますが、そのための「時」があると言われます。次のイエス言葉と関連してみましよう。

「イエスは母に言われた、『婦人よ、あなたは、わたしと、なんの係わりがありますか。わたしの時は、まだきていません』」イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行い、その栄光を現された。そして弟子たちはイエスを信じた」（ヨハネ 2:4,11）。

公生涯のはじめの出来事で人々のために栄光を現されたとありますが、しかし、この時は、まだ神の栄光が完全にあらわされる「時」は来ていないと言われました。その時が来たと言われたのは、十字架にかかれる前だったのです。

「キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、かえって、おのれをむなしくして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった」（ピリピ 2:6-9）。

この十字架で、神の栄光が表されました。

わたしたちはそれを眺めるべきです！

「わたしたちはみな、顔おいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである」（コリント第一 3:18）。

るような真実の証拠を何も提示できないことを知っていました。そこで祭司たちは助っ人として偽りの証人を呼びました。「訴え出て言った、

『わたしはこの人が国民を惑わし、貢（みつぎ）をカイザルに納めることを禁じ、また自分こそ王なるキリストだと、となえているところを目撃しました』」（ルカ 23:2）。

これは偽りでした。キリストははっきりと貢をカイザルに納付することを認めておられたからです。律法学者たちがまさにこのことに関してわなにかけようとしたとき、このお方は「カイザルのものはカイザルに……返しなさい」と言われました（マタイ 22:21）。

ピラトは偽りの証人の証言にだまされませんでした。彼は救い主に向き直って尋ねました、

「あなたがユダヤ人の王であるか」。

イエスは「そのとおりである」とお答えになりました（マタイ 27:11）。

この答えを聞いたとき、カヤパや共にいた人々は、自分たちが告発した罪をイエスさまが認めたことを証言するようにピラトに求めました。騒々しい叫び声をあげて、彼らはこのお方に死刑の宣告をくださうように要求しました。

キリストはご自分の告発者たちに何もお答えにならなかったのもので、ピラトが言いました、『「何も答えないのか。見よ、あなたに対してあんなにまで次々に訴えているではないか」。……

しかしイエスは…何もお答えにならなかった」（マルコ 14:4, 5）。

ピラトは困惑しました。彼はイエスさまに犯罪の証拠をみとめることができませんでした。また、このお方を告発している者を信用していませんでした。救い主の気高い様子と静かな態度は、このお方を告発する者たちの興奮や激怒と対照的でした。ピラトはこれに感銘を受け、そしてこのお方の無実を確信しました。

このお方から真理を引き出したいと望んで、彼は自分にイエスさまを引き寄せて、「あなたはユダヤ人の王であるか」と尋ねました。

キリストはこの質問に直接的な答えをお与えになることはなさらずに「あなたがそう言うのは、自分の考えからか。それともほかの人々が、わたしのことをあなたにそう言ったのか」とお尋ねになりました。

油を使わないごまドレッシング

材料	白いりごま	2 分の一カップ
	レモン汁	4 分の 1 カップ
	ハチミツ	小さじ 1
	塩	小さじ 2 分の 1
	水	2 分の 1 カップ
	醤油	大さじ 1・小さじ 1 (20CC)
	玉ねぎ	8 分の 1
	ニンニク	2 かけ
	豆腐	300 グラム (1 丁)

作り方

1. 白いりごまだけミキサーで、細かくする
2. その後、すべての材料を入れて、ミキサーでまわす。
3. クリーム状になったらできあがりです。

サラダだけでなく、パンにつけていただいても美味しいです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第42話

ピラトの前で(1)

キリストがサンヒドリンの裁判官によって有罪を宣告された後、このお方はすぐに、判決の確定と執行を受けるために、ローマの総督ピラトのところへ連れて行かれました。

ユダヤ人の祭司や役人たちは、自らピラトの法廷に入ることはできませんでした。自分たちの国の礼典律（れいてんりつ）によれば、彼らはそうすることによって汚れることになり、過越（すぎこし）の食事にあずかることができなくなるのです。

彼らは盲目になり、キリストが本当の過越の小羊であられること、またこのお方を拒んだために、この大いなる食事は彼らにとって意味を失った

ということがわかりませんでした。

ピラトがイエスさまを見たとき、彼は気高い顔つきをした威厳のある人を見ました。犯罪のあとは、このお方のお顔に見られませんでした。ピラトは祭司たちに向き直って尋ねました。

「あなたがたは、この人に対してどんな訴えを起こすのか」（ヨハネ 18:29）。

このお方の告発者たちは詳細を述べることを望んでいなかったのので、この質問に対する準備ができていませんでした。彼らはローマの総督がこのお方に有罪を宣告す



(45 ページに続く)